

社会福祉法人 楽山会  
第二椎の実子供の家

## 平成24年度 事業報告

当園は、平成24年4月に開設したばかりの新設園である。新しく快適な環境の中で、子どもも保護者も職員も期待や希望を胸に膨らませ、大きな一歩を踏み出すことができた活気的な1年間であった。この1年間で園の運営も軌道に乗せる事ができ、支援して下さった関係者や周囲の方々に心より感謝申し上げたい。

法人の基本理念「幼児の躰でその一生が決まる」を念頭に置き、子どもの生命の尊重と安全確保を第一とし、家庭と連携を図りながら保育をすすめてきた。

安全安心保育を目標に掲げ、園児や保護者との信頼関係を大切にし、見える保育を心掛けてきた。子ども達が保育園で楽しく遊び、十分に活動ができるよう、環境整備に努めた1年でもあった。

職員においても、日々の保育を重ねながら研修には積極的に参加し、学び合いの時間を大切にしてきた。人とのコミュニケーションや思いやりを大切にする職員の育成に力を注いでいきたい。

地域に向けての広報活動として、ホームページの開設、パンフレットの作成や配布を積極的に行い情報発信に努めた。今後も地域社会との繋がりを大切にしていきたい。

平成24年度の重点目標は以下の通りであった。

## 24年度重点目標

- I) 安全安心保育
- II) 保護者との連携
- III) 職員の人材育成と資質の向上
- IV) 関係機関との連携
- V) 地域との連携

## I) 安全安心保育

安全管理においては、安全危機管理委員会を中心にチェック機能を明確にし、職員一人ひとりが意識できるように努めた。また、ヒヤリ・ハット報告書を確認し合う事で、より安全に対し注意が向けられるようになった。

## II) 保護者との連携

信頼関係を築くことを第一に考え、特に職員の対応に一貫性が持てるよう相談や報告を確実に行うことを意識していった。また、子どもの様子をきめ細やかに伝えることで安心して預けて頂けるように心掛けた。

保護者アンケートで寄せられた意見や連絡帳に書いてある内容を見逃すことなく受けとめ、速やかに返事を返すなどの努力をした。

## III) 職員の人材育成と資源の向上

9月より、個々の職員の「ふりかえりノート」をFAPシートに連動させて活用をしていった。職員一人一人の振り返りや評価についての視点が重要視される中、新人職員にもわかりや

すく日々の保育を整理するのに役立てた。

自主研修に積極的に参加をする職員が多く、学びたいと思う気持ちが日々の保育の中にも表れ向上心を持って取り組むことができた。

#### Ⅳ) 関係機関との連携

傷がいや課題のある子どもへの理解と援助についての学びを深める為に、北野ハピネスセンターや子ども家庭支援センター、児童相談所など公的な機関と連携を図った。観察の仕方や援助の仕方を学ぶことができた。専門的分野からの指導・助言をいただくことで、より良い保育に向けての確認ができ、とても心強く感じた。

#### Ⅴ) 地域との連携

近隣の方へは積極的に「こちらから挨拶をする」などを心掛けた。おまつり等の作品展示に参加させてもらう機会を得た。家族と一緒にその作品を見学した子どもも多く、地域の中で繋がらう事の大切さを感じた。

一時預かり事業は6月からの開始だったが、8月頃より登録者が増え、利用者数も急増していった。園の子どもたち同様によい環境での保育を心掛け、保護者の方に安心して預けていただけするように配慮した。一時預かり事業の案内は、ホームページ等だけでなく、利用者の口コミでも広まってきている。